

真空をかけるすずめ

科学の進歩はすごい。ついにある生物学者が体内で無限に作り出されるエネルギーで飛ぶすずめをつくりだしてしまった。このすずめは、いつも元気いっぱい。

空を飛ぶのはもちろんだが水中でも平気。いろんな所を飛んでいたけど、ある時、退屈になってしまって、地球の外に飛び出してしまった。

地球の外は、もちろん真空なんだけど、それでも平気で飛び続けた。

でもね、すずめは、はっと気がついたんだ。周りに誰もいないということに。

そしたら、エネルギーがなくなつて、どんどん落ちて真空の中に消えてしまった。

実は、エネルギーは、すずめの飛びたいという意欲そのものから出るものだったのです。

いなかへ帰ろう

実はおなかをすかせて帰って来た。

北風が身にしみてあたたかいものを食べたかったが、ポケットには小銭が数枚入っているだけだった。

部屋は脱ぎっぱなしの靴下が数足と黒い野球帽が転がって、出かけたときと同じ汚さで彼を迎えた。

「緑色のソックスは春菊、クリーム色が鶏肉、白いハイソックスはきりたんぼ、茶色はひらたけかな？」

ひとつずつひろいあげては黒い帽子の赤にひろい入れていった。

「あは、きりたんぼ鍋ができたぞ」

なんだか湯気までたち上つてくるような気がする。

「オレ、いなかへ帰ろうかな、もう一回やりなおしだ」

悲しいのか、安心したのか、涙が出てきた。

究極のバイク

私は究極のバイクを持っている。何と破って捨てられるんだ。でも捨てなくてもいい。破つてもつなげれば元に戻せるんだ。少し技術がいるし、特殊なのりが必要だ。

駐輪場もいらぬし、いつも持ち運べる。

ただ、キーを破ってしまうと戻せなくなる。ここだけ気を遣う。

この間は、危なくキーもバラバラにするところだった。困るのは、つい捨てたくなっちゃうことだ。バラバラになるとゴミ箱に入れたくなる焦燥にかられる。この気持ちにさせるのが、メーカーの工夫なんだろう。だから最近では破らず使い続けている。

ついに、駐輪場も借りてしまった。だったら、普通のバイクの方が半値なのでよかった。少し後悔している。

歌う魚

ある日、水辺にテントを張ってキャンプをしていた真一は、夕食もすませ、そろそろねようとランプを消すと、どこからともなく声が聞こえる。「おかしいな。今日は自分一人のはずなのに、だれか来たかな？」そんなことを思っていると、それは歌だとわかった。

気になり、声の方へ。それは川の中から聞こえる。ライトを持って、川面をてらすと、一匹の魚がいたが、ほかに人はいない。

まさか、魚が唄うはずがない。いつの間にか、うたは聞こえなくなった。

次の日、川で魚つりをしていると、一匹の魚がつれた。その魚は、うたをうたってる。

そうか、きのうのうたは、この魚がうたっていたのか。

夕食用につった魚だったが、食べてしまったら、もう、うたを聞くことができなれないと思い、川に戻した。次の年の夏、真一は、またキャンプに来た。また、うたが聞こえてきたが、今度は合しようしている。

そうか、あの時の魚は家ぞくができたんだ。うたを聞きながらね入った。

しゃべるタロットカード

いつも使っているタロットカードが急にしゃべるようになった！

見てもらいたい内容を言葉で伝えてカードを並べると、その結果を伝えアドバイスしてくれる。ただしカードは信念があり、日頃の私の行いが悪いと、「地獄に落ちろ！」のしられて説教されて、ちゃんとした生活をしていたら良い子だと褒められて、正しく占ってくれる。

タロットカードを使っているうちは良い子になれるのだ。

出入り自由な曲

ある人気バンドの曲で、ライブでのみ披露される一曲がある。

一曲一〇分の中で、ボーカル、ギター、ベース、ドラムがそれぞれ好きなタイミングでステージ上上がって演奏したり、逆にはけたりするのだ。

完璧な曲として演奏されることはほとんどなく、ファンも曲の全貌を知らないというところで有名な曲だったが、解散ライブ当日サビの部分で全員がステージ上に揃い、会場は熱狂に包まれた。

パンツでナンパ

秋だ、雨だ。

雷さんが釣りざおもって、女の子ナンパにやってきた。

ぴかぴかゴロゴロ、えいっとさおをふりかざしたら、ビービーカカカギードグルグーグビーカピーカヒーイカ、ひえー助けてくれ、はずしてくれ、誰がオレを釣ってんだ。

いつもと様子がちがって、なんじゃろと？ 空をみると雷さんは釣針と糸にひっかかって四苦八苦。地上のみんなは大笑い。お友達の風神さんがあきれてへん顔、

「お前を釣ってんのは、お前だよ！」

えいっと風で雷神さんのパンツをふきとばして、おしりが丸出し。おわり。

さわがしい湖

ずっと昔から山の奥にあり、近づくと、ざわめきが聞こえる。

よく聞くと、人の声から、浜を歩く音まで、たくさんのが聞こえる。

今はそんなに人も来ないが、あまり長くいると、湖に話したことを覚えられてしまう。

また、知りたくないことも聞こえてしまうので、注意しないといけない。

こおるサメ

このサメと友達になるといろんな人をこおらせて、せかいせいふくができる。だけど、こおらしすぎたり、自分がこおりから出られなくなってしまう。しかし、相手をこおらせるので、食料にはこまらない。

奇跡の傘

その傘は心のきれいな人にだけ現れる特別な傘、その傘をさして願い事を言うと、その願いは必ずかなうと言われている。

その傘の内側には満点の星空が広がっていて、ねがい事を言った後には無数の流れ星が降りそそぐ。

だが、この傘を雨の日以外に使うと、そのねがい事の逆が一月間叶ってしまうのだ。

じょうはつする着物

ある大手着物会社が、新しい着物をだした。その着物は十時間着物を着るとじょうはつして消えてしまう着物だった。

そんな着物だれが着るんだ、となりそうだが、その着物はとても軽く、子供が着たりするのにピッタリだった。もちろん、大人にも人気になった。

人気になるにつれ、着物は大量生産されるようになった。また都市伝説も生まれた。それは、十回以上着ると、十時間たつていなくても、着ていた人が消え、その世界にそんざいが消えてしまうというものだった。

さわりごこちのいいクワガタ

普通のクワガタは手に乗せるとイタイ。そこでさわりごこちのいいクワガタをけんさくしてみた。なんとそれはプニプニでフワフワのさわいごこちのいいクワガタだった。その情ほうによると手に乗せてもイタクないし気持ちいいらしい。しかもふつうのクワガタは水

をかけられると弱るが、防水、発水、するらしい。

しかし他のサイトを見てみたが、さわりすぎるといかくし、体が通じよう以上にかたく、するどくなつては生まれ、まあ、どくはないようだが、けっこういたいし、三分以内にぬかないと血をぬかれてひん血になるそうだ。

それに二十年に一ぴき生まれるが死ぼうする確りつは高いから、そうぐうすることはな
いと思う。ただ二才になるまで死ぼうしなければ、だいたい生きのびるらしいし、世界で一
番〇〇なにかある（できる）所にたまごを生むから、この町ではでてこないだろう。

しかし、かわいそうなことに、「さわりごこちのいいクワガタ」のハンターがいるから、
八億〜二十年前まで普通にいたが、動物やきょうりゅうにもハンターはいるらしい。ハンタ
ーにつかまえられて、高がくで取ひきされるらしい。最近ではへっている。だから今アジア
には百ぴきもないそうだ。

まあかわいそうだから見つけたらほごしてやるか……